

<教育実践研究>

表現を楽しみ、共に分かち合う仲間づくり

～「生活を楽しむ子」を育む授業づくりを通して～

(鳥取大学附属特別支援学校の中学部における取り組み)

浜田亜希子, 谷口由紀子, 出田美幸, 内田成俊, 有田裕一, 熊中祐子, 西尾敏枝

Formation of Peer group in Which Children Enjoy Expression and Share it Through Course Planning to Foster Children Who Enjoy Their Life

(Educational Practice in the Course of a Junior High Department of Tottori University school for Children with Special Needs)

HAMADA Akiko, TANIGUCHI Yukiko, IZUTA Miyuki, UCHIDA Shigetoshi, ARITA Yuuichi, KUMANAKA Yuuko, NISHIO Toshie

キーワード：中学部, 思春期, 表現活動, 仲間づくり, 授業づくり

Keywords: a junior high department, adolescence, activity of expression, formation of peer group creation of practices

1. はじめに

鳥取大学附属特別支援学校中学部では、小学校時代に培ってきたものを土台としながら様々な体験を拓げ、好きなことを増やしたり、自分のよさを見つけたりして、仲間とともに豊かな生活を送ることをめざして教育活動に取り組んできた。中学部の3年間は、家庭との関わりが深い幼児期から、学校の教師や友だちへと人との関わりが拓がる小学校時代を経て、仲間との関わりが拓がっていく時期である。また、高等部や地域社会の中へと、人と関わる集団も拓がり始める大切な時期であり、この時期に様々な経験を積み、人との関わりを楽しみながら生活体験を拓げていくことは、将来豊かな社会生活を営んでいくためにも重要である。生徒たちが仲間と共に様々な経験を共有し、思いを共感し合い分かち合うことによって自己肯定感を更に高めていくことができるよう、教育実践に努めていきたいと考えている。

2. 中学部の概要

(1) 目標 本校中学部の目標は、

友だちとの関わりを大切にし、意欲的に活動する中で、豊かな社会生活を送るための力を身につける。

である。

これを受けて、中学部のめざす生徒像は、

自分のめあてに向かって、仲間と一緒に意欲的に活動する生徒

～見つけよう 拓げよう 仲間とともに～

としている。

(2) 週時程表

週時程表は、生徒の実態に合わせながら少しずつ改訂し、今年度は表1の通りである。

表1 2011年度 中学部週時程表

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（着替え・掃除・朝の活動・朝の会）				
2	課題学習（国語・数学・自立活動）				
3	生活単元学習（資料1）				
4	体 育				
	給 食				
5	自立活動	作業学習	特別活動	音 楽	作業学習
6	清掃活動			清掃活動	

3. 中学部の研究

（1）2010年度の取り組み

中学部では、2008年度より学部全体で取り組む合同生活単元学習で、生徒の興味・関心の高いミュージカルに取り組み、生徒とともに題材選択や台本づくりを行っている。また、読み聞かせの活動や物語を動作化する身体表現活動、作詞や作曲にも取り組んでいる。自分たちの思いや考えが一つ一つ形になっていくことで、生徒たちは、「自分たちのミュージカル」という誇りと愛着を持って活動に向かう姿が見られる。

2009年度は、「評価の視点」（工夫したり頑張ったりすること）を設けたことで、より広い視野や多様な視点で振り返る姿が見られるようになっていった。取り組みを通して、ミュージカル3年目となった3年生は学部全体をしっかりと引っ張り、2年生もまた経験を生かして見通しを持って意欲的に活動に取り組む姿が見られた。このような2、3年生の姿に刺激を受け、1年生も大きく変化していった。（2010年度鳥取大学附属特別支援学校研究紀要参照）

2011年度は、昨年度の課題をふまえて、より実践を深めていくための授業評価について考えていくとともに、生徒の言語活動が充実していくよう、新学習指導要領をふまえながら学習展開や支援の工夫をしていきたいと考えた。

（2）2011年度の取り組み

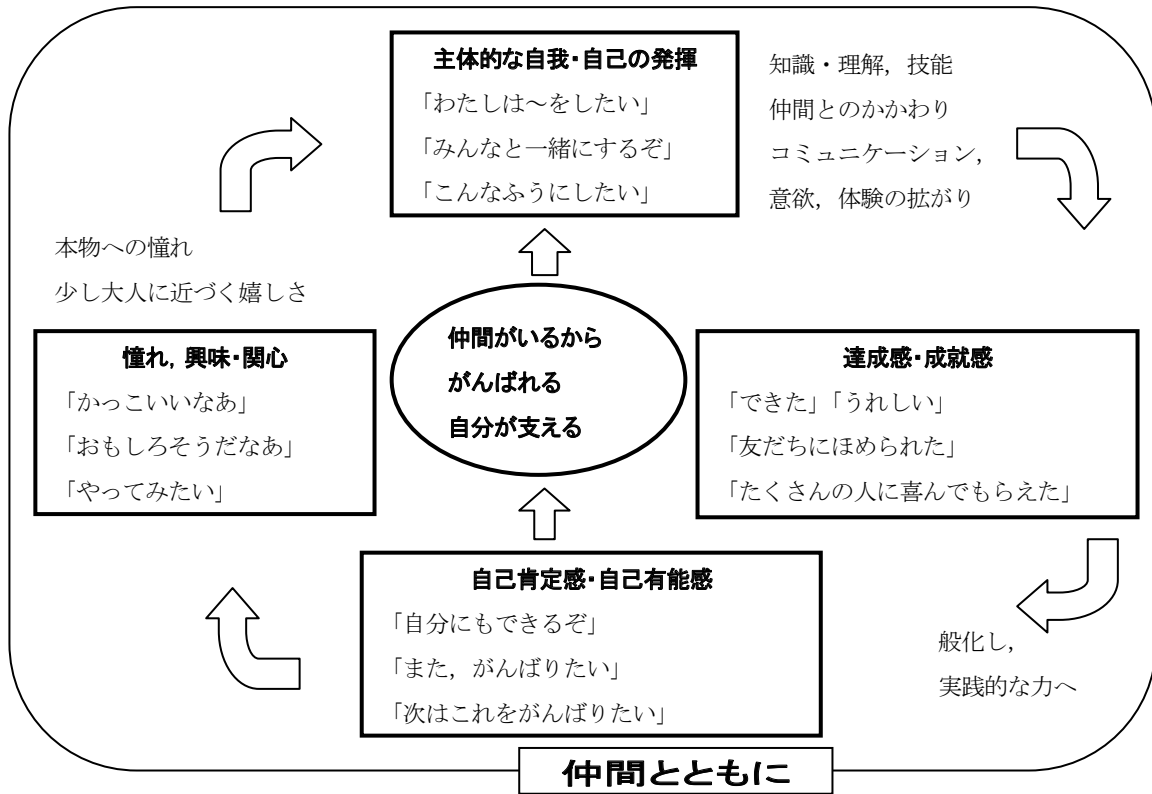
①研究テーマの設定

中学部では、集団づくりに視点をあてながら合同生活単元学習の授業づくりに取り組み、今年で3年目となる。授業づくりにあたっては、生徒の興味関心の高い表現の活動に取り組むことにより、さらに個々の表現する気持ちが育ち、個々の力や自信を伸ばしていくことができると考えた。そして、友だちと関わって活動する中で、生徒たちの表現への意欲や関心を高め、気持ちを分かち合うことのできる仲間づくりを支援していきたいと願い、「生活を楽しむ子」を育む授業づくりに取り組んでいくこととした。集団の中で生き生きと活動する生徒たちの姿を思い浮かべながら「個が生きる集団づくり」について考えるとともに、新学習指導要領をふまえて中学部の教育内容を整理し、支援の見直しを図っていきたいと考えた。

②仲間との関わりの中での「生活を楽しむ子」

生徒たちは憧れや興味・関心をベースに「やってみたい」という思いを膨らませ、活動に主体的に取り組んでいく。その中で生徒たちは自己決定をし、「自分は～がしたい。」「～さんと一緒にしたい。」「こんなふうにしたい。」等と、主体的に自我・自己を発揮していく。時にはあきらめたくなることもあるが、それまでに培った自己肯定感が、くじけそうな自分を支える。また、一緒に活動に取り組む仲間が励みとなり、仲間がいるから

頑張ろうとして、自分を支える力となる。友だちを意識して活動する中で、協力し合い助け合う友だちの輪が広がって、仲間となっていく。仲間との関わりは、「自己運動サイクル」を循環させるための大切な土台である。中学部では、特にこの仲間との関わりを、大切にしていきたいと考え、中学部の「自己運動サイクル」を(図1)のように考えた。生徒たちは仲間と共感し合い分かち合うことによって、自己肯定感をさらに高めていく。これらの力はより具体的な生活の中へと般化され、実践的な力となって次の活動への原動力となる。このようなサイクルで回っている姿を「生活を楽しむ子」の姿と捉えている。

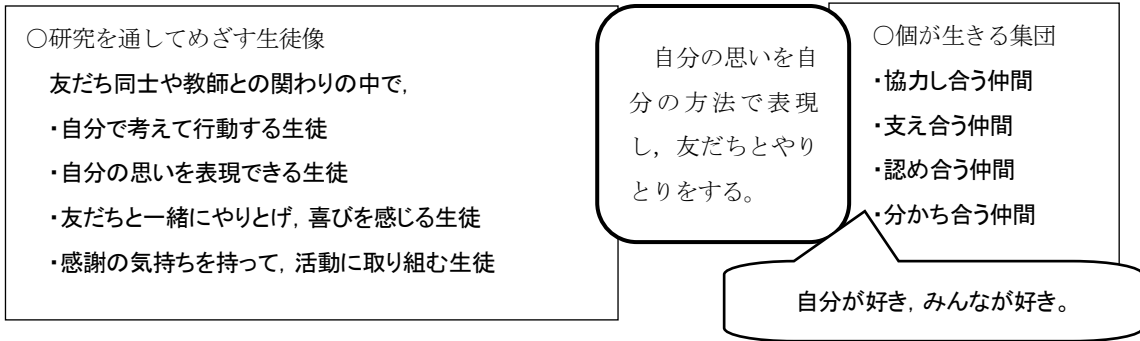


(図1) 〈中学部における自己運動サイクル〉

自分一人では一步を踏み出せない生徒も、仲間の姿を見たり言い方を真似たりして、少しずつ自分の意見を言おうとするようになる。また、それぞれの表現方法は様々だが、みんな友だちが好きで、仲間と一緒に活動することをとても楽しみにしている。集団で活動することで、生徒たちの人との関わりが広がり、「仲間と一緒になら頑張れる。」「自分の気持ちを言ってみよう。」「分かってもらえた。」と、仲間と気持ちを共感し合う場面も増えていく。お互いに応援し合ったり、感謝し合ったりすることで、より友だちを意識し、中学部の仲間(集団)全体へ視野を広げていくことができると考えている。これらの活動を大切にしながら中学部では、研究を通してめざす生徒の姿と個が生きる集団を次のように考えた。(図2)

生徒たちが持っている仲間と分かち合いたいという願いが膨らんで、仲間とやりとりする力となっていくよう、題材や学習形態を工夫し、支援の共通理解を図って取り組んできた。

多くの友だちとともに一つの目標に向かって取り組む中で、生徒たちは友だちと一緒に考え、作業をともにし、表現することを一緒に楽しむようになる。そして、その達成感を共有する友だちが、かけがえのない仲間へと変容していく。この「仲間づくり(集団づくり)」の過程を、ミュージカルづくりの題材と重ね合わせながら、丁寧に学習内容を組み立てて、個々の変容を捉えながら実践していきたいと考えた。



(図2) 中学部の考えるめざす生徒の姿と、個が生きる集団

③授業評価

私たちは、実践をより確かにしていくために、「ねらいを明らかに」「実践を確かに」「生徒を深く捉えよう」「評価を生かして改善しよう」という「実践創造サイクル」(資料2)を意識しながら授業づくりを進めている。今年度は、学部全体で評価について再度見直し、実践をより深めていくために、「評価を生かして改善しよう」の中に「実施した授業の評価」を加えて取り組んでいくこととした。

中学部では授業づくりをするにあたって、以下に示した『自分づくり』に留意した授業づくりの視点(表2)を大切にしている。生徒一人一人の「自分づくり」の段階に応じた支援を充実させ、さらに自己肯定感を高めることができるよう、共通理解して取り組んでいる。この視点を授業の計画時や評価を行う際に活用していくこととし、新たに授業評価シートを作成して取り組んでいった。(資料3)

表2 〈「自分づくり」に留意した授業づくりの視点〉

A: 自分たちでやりたいことを考えるように

生徒たちが思いを高めてやりたいことを考えていけるように、これまでの学習とのつながりや導入段階の学習計画を工夫する。また、生徒が自分の目標を持って主体的に取り組んでいくことができるように、自己決定したり考えたりする場面を設定する。

B: 自分でできるように

生徒一人一人が活動をやりきって満足感が持てるように、活動内容や活動量、教材や補助具、手順書、構造化などの工夫をし、「自分でできた」という思いを育むようにする。

C: 伝えたいと思う気持ちを大切に

憧れの気持ちを育てるとともに、他者を意識した身近な活動を、生徒たち自身の手で創り上げ、体験できるよう準備する。自分の思いや考えを伝えたいと強く思い合えることのできる仲間づくりを大切にしながら、伝えたいと思う相手を増やし、広げていけるような場面を設定する。

D: 友だちとの関わり・仲間づくりを大切に

自然に協力したり、心の共有が図れたりするような場面を設定していく。支え合う集団となるよう集団編成の工夫をする。友だちとの関わりの中で新しい価値観を見出したり、集団の中の自分を意識したりできるような仲間づくりを支援していく。

E: 自己評価や友だちからの評価も大切に

生徒が自分を振り返るとともに、仲間の中でお互いを認め合い、賞賛し合うことができるよう、学習の終わりに集団の中で成果や感想を発表し合う場面を設ける。学習の過程においても、他者からの評価をタイミングよく生徒に返していく。

授業のチーフ(T1)は、担当する合同の授業を行う前に授業評価シートに本時目標や自己運動サイクルにそった学習の流れを記入して皆に配布する。授業後に、授業者全員がその授業の評価を簡単にシートに記入する。その後、授業についてディスカッションをし、良かった点や改善点について共通理解を図った。T1として授業をする際に、自分でも気づかなかった点などについて把握して次回の取り組みに生かしたり、個々の支援の方法やタイミング等についても確認し合ったりすることで、授業の改善を図っていった。

④単元に入るまでの取り組み

○仲間づくりを支援する教育内容の整理

中学部では、生活単元学習や体育、音楽など、合同で扱うことの多い学習に関して、生徒たちが学習を通して仲間を意識し、集団を形成していくことができるよう、年間指導計画における単元の組み方を工夫して設定している。9月中旬より合同や縦割りグループによる学習を取り入れた。クラスとしてのまとまりができ、学部の友だちにも慣れてきたこの時期に、合同の学習を組むことは、新しい人間関係を築くのに適していると考えている。

グループ編成は以下の視点を大切にして、中学部教員で話し合って決めるようにした。

- 学年を解き(縦割り)、上級生がリーダーとしての役割を担うことができるようにする。
- 日頃の人間関係を考慮し、力を発揮しやすいメンバーを構成する。
- それぞれの得意なことを生かし、補い合えるような関係を作る。
- 「自分づくり」の段階を考慮し、実態別のグループも活用することもある。

学習場面では、生徒たちが仲間づくりを深めることができるよう、自分たちで話し合ったり、考えたり、一緒に活動したりする場面を作っていた。また、様々な学習場面で上級生が下級生に教える場面を意図的に設定した。その中で、上級生は自分の行ってきたことを確かなものとして積み上げ、下級生は上級生に憧れの気持ちを持って活動に取り組む姿が見られた。

合同生活単元学習は、「ふれあいまつり」と「Let's ミュージカルⅣ」の単元を連続して行うことで、縦割りグループの関わりを深めるとともに、グループを超えて他の仲間への関心を広げることができる。大きな集団で自分の力を発揮して、全員の力をさらに膨らませていくことにより、大きなことを成し遂げる充実感を味わうことができると考えている。

○仲間とともに取り組む言語活動

今年度、中学部で生徒の実態について話し合いを行った。その中で、皆友だちが好きで友だちと楽しくやりとりをしたいという気持ちを持っているが、語彙が少なく言葉がなかなか出てこないといった実態があることがわかった。そこで、表現することを臆せず、友だちとのやりとりを楽しんでほしいと願い、言語活動の充実をめざして以下の項目を計画して取り組んできた。

項目	学 習 内 容 等
創作体験活動	地域の劇団「鳥の劇場」の協力により、物語の1場面を使って創作劇を作る活動に全員で取り組んだ。今年の東日本大震災を経て、鳥取の歴史の中で地域の先人たちが自然と向き合いながらたどった歩みを学習することとした。そこで、自分たちの地域に目を向けてほしいと願い、総合的な学習で扱う「鳥取の砂丘の歴史」に合わせて、「砂と生きる」というテキストを用いた。全員で取り組むことによって、友だちと一緒に思い切り表現する姿が見られた。

国語学習	読み聞かせ	朝読書時間の設定をし、学級毎や2つの縦割りグループで読み聞かせを行った。鳥取大学の小笠原拓先生にアドバイスをいただき、心を揺り動かされる話や少し頭をひねって考えるような話にも親しむ機会を設けた。縦割りグループでは、グループ毎に読み聞かせのねらいを明確にし、課題図書も選定して取り組んだ。
	グループ国語	読み聞かせと同じ2つのグループで取り組んだ。両グループともやりとりの仕方や物語の読み取りをねらい、それぞれの実態に応じて教材を選定し、支援を工夫して行った。回を重ねていくうちにグループでの仲間意識が育っていった。
総合的な学習（地域の人との関わり）		福部町で読み聞かせをしておられる方々の紙芝居「砂丘らっきょう物語」を見たり、実際に砂防の経験のある福部町の地域の方の話の聞いたりした。また、国語学習で考えたインタビューも行い、話をじっくりと聞いたり、聞いたことをメモにとったりした。メモにとった内容は、後日グループのみんなで共有し合い、まとめた。
体験を重視した活動		鳥取大学の研究施設であるアリドーム、鳥取砂丘に出かけ、それまでに学んだことや地域の方から聞き取ったことをふまえて様々な体験をした。アリドームでは、「嫁殺し」と言われた水やりのてんびんぼうを実際にかついでその重さを体験した。鳥取砂丘では、砂の上を歩いたり、砂の感触を確かめたりした。また、砂防林や砂防垣を実際に見ることができた。今まで学習してきたことをみんなで確認することができた。
体育での表現活動		鳥取大学の佐分利育代先生からのアドバイスを受けて、上級生が下級生に教える場面を多く設けることで、自己実現を図るようにしていった。また、体験活動をふまえた学習活動を設定し、実際に経験したことを生かしていった。

これらの活動が、その後の台本づくりや曲づくり、ミュージカルでの動きに生かしている。

○言語活動におけるグループ編成

今回取り組んできた言語活動は、2種類のグループに分かれて行った。1つは、自分づくりの段階に応じたグループで、国語学習や総合的な学習、体験を重視した活動といった新しい知識を得ていく活動はこのグループで行った。これにより、生徒たちの知的な好奇心を満足させるような教材を準備することができ、意欲的に活動に向かう生徒たちの姿が見られた。もう1つは、学年を解き、人間関係等を考慮した力を発揮しやすいグループで、創作体験活動や体育での表現活動といった、話し合ったり力を合わせて作り出したりする活動はこのグループで行った。これにより、お互いの得意なことを生かしたり、補い合ったりしながら活動に取り組む姿が見られた。この縦割りグループがミュージカルでの活動グループとなった。グループの中でそれぞれが成長し、そして、グループとしてもまとまっていった。

⑤「Let's ミュージカルⅣ」での取り組みと生徒の姿

● どんなミュージカルに？

ふれあいまつり後の合同生活単元学習内容について夏休み直前に生徒たちに希望を聞いたところ、全員からミュージカルをやりたいとの声が聞かれた。単元の導入では、今年取り組むミュージカルの演目を「砂と生きる」にすることを決めた後、どんなミュージカルにしたいかを話し合った。東日本大震災を意識し、「日本中が元気になるミュージカルにしたい。」と発表する3年生の姿が見られた。生徒たちは、昨年までの取り組みで自分たちのミュージカルが人を感動させたり、人の役に立っていたりすることを実感している。生徒たちの自己有用感や社会貢献への意識の育ちを感じることのできる単元のスタートとなった。

● 台本づくり

総合的な学習や国語学習で作成した資料や、体育の学習で行った「場面の動作化」でイメージした言葉をもとに、表現の縦割りグループで話し合い、台詞を1つずつ考えていった。生徒たちの語彙の広がりや言葉の使い方を教師が意識し、言葉を補ったり修正したりしながら台本づくりをすすめていった。話し合いの場面では、「話し合いのポイント」を手がかりにして、各グループの3年生がリーダーとして話し合いをすすめた。体育の学習場面では下級生を上手にまとめることができず涙ぐんでいた3年生が台本づくりでは教師の支援を受けながら話し合いをすすめる姿が見られるようになり、エピソードの場面では、グループのまとまりが見られるようになっていった。



● 曲づくり

今年も、鳥取の作曲家上萬雅洋さんにご協力いただき、表現の縦割りグループでメロディーを考えていった。ミュージカルに使われた主題歌・挿入歌のメロディーと歌詞を自分たちで創り上げた。曲づくりが初めての1年生は最初は戸惑っていたが、積極的に楽しく取り組む3年生の姿に影響を受け、思いついたメロディーを友だちと伝え合うようになっていった。「自分たちの歌」という誇りと愛着を持ち、朝の会や休憩時間に大きな声で歌っていた。



● 大道具、小道具、衣装づくり

みんなで分担して協力しながら、松の木や衣装等を制作した。昨年同様生徒たちの生活経験を生かし、衣装づくりにミシンやゴム通しの作業も取り入れた。大道具づくりでは、上級生が1年生にのりづけの場所を教えたり、くじけそうになった1年生を励ましたりする姿が見られた。

● 歌の練習

鳥取大学の西岡千秋先生の歌唱指導を受けた。目や口、鼻をしっかりと開けて歌うことや、音をよく聴き、お腹から声を出すことを教えていただいた。楽しい指導の中、笑顔で大きな口を開け、いきいきと歌う姿が見られた。

● 招待状づくり

インタビューを行った地域の方々や創作体験活動と一緒に活動した劇団の方々等、この学習でお世話になった人々に感謝の思いを込めて招待状を作り送った。地域の様々な人たちとつながることで、自分の住んでいる地域のすばらしさを実感し、ミュージカルの練習により意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

● ステージ練習から本番へ

ステージ練習をするにあたって、昨年同様場の構造化を行った。立ち位置には、各場面ごとに色を変えたカラーテープを貼り、スムーズに自分の位置へ移動できるように支援を行った。台詞のタイミングが取りにくい生徒には、台詞カードを作成したり、グループでの並び位置やペアリングの工夫をしたりした。

練習をする前に、それぞれのグループで自分のめあてやグループのめあてを確認し、練習に臨んだ。2、3年生が自分のグループの1年生に場所を教えたり、声をかけたりする姿が見られるようになった。単元始め頃の学習場面では見られなかった姿である。グループの様子は以下のとおりである。



Aグループ	リーダーである3年生は、グループを引っ張っていきたいという気持ちを持って積極的に動いて表現しようとしていたが、グループのメンバーに意見を聞いて話し合いを進めることがなく、特定の人の意見で活動が進んでいく傾向にあった。リーダーに、グループ全員に目を向けるよう声をかけたり、話し合いの仕方を提示したりすることで、全員に意見を求めながら話し合いを進めるようになっていった。その中で、リーダーを中心に自分たちで目標を考えたり、声をかけ合いながら積極的に動いたりする姿が見られるようになり、グループとして少しずつまとまっていった。
Bグループ	何とかしてまとめようとする3年生のリーダーと自分のペースで活動するメンバーがかみあわず、グループ発表後にリーダーが涙ぐむ場面も見られた。リーダーに話し合いの進め方を提示したり、メンバーの生徒にリーダーへの注目を促したりすることを重ねるうちに、まとまりを見せてきた。上級生が下級生を気にかけて一緒に動いたり、声をかけあったりする姿が見られるようになっていった。そのような雰囲気の中で、お互いに助け合いながら活動するようになった。
Cグループ	当初から自分の思いを持って発言しようとしていたが、友だちに向かってではなく、教師に向かって話をする傾向があった。3年生のリーダーに対して友だちに目を向けるよう声をかけたり、話し合いの進め方を提示したりすることによって、日頃はマイペースなそのリーダーが友だちに関心を寄せるようになった。また、それに伴ってグループの他のメンバーも、友だちの意見に耳を傾けたり、それぞれの意見をつなぎ合わせて考えたりすることができるようになっていった。そして、互いに協調し合い、共に活動することに喜びを感じるグループへと成長していった。

練習の振り返りでは、ビデオを見て友だちの頑張った姿や自分の反省点、友だちの改善点等を伝え合い、次の練習のめあてにする生徒も見られた。

1週間前には中間発表を行い、他学部や友だちや教師、大学の先生等多くの人に見ていただき、感想や助言をいただいた。中間発表でいただいた感想や助言をもとに、自分のめあての修正を行い、練習を重ね本番を迎えた。

⑥成果と課題



今年度、言語活動の充実をめざし、地域の方からの聞き取りや校外学習などの実体験をもとにしてミュージカルを構成していったため、感じたことなど生徒からの言葉がたくさん出てきた。台本づくりの中では、友だちの意見を聞いて付け加えたり、自分の考えと友だちの考えをつなげたりしながら台詞を考えることができた。生徒たちが仲間と力を合わせながらミュージカルを創り上げていったという実感をより感じる事ができる取り組みとなった。

また、生徒が実際に感じたことや体験したことが言葉や動きにつながっていったため、より気持ちをこめて台詞を言ったり、表情をつけながら大きく動いたりする生徒たちの姿が見られた。また、生徒たちの実態や課題に応じてグループを編成し、他教科(国語、音楽、体育、社会等)と関連して実践していくこともできたため、生徒たちの知識を広げたり深めたりすることもできたように思う。

また、仲間づくりを支援するために教育内容を整理したり、活動におけるグループ編成を工夫したりしていく中で、友だちを気にかけて、協力して取り組もうとしたりする姿が多く見られるようになった。そして、「一つのことを創り上げる」という共通の目的を持って集団で取り組む中で、教師の支援がない場面でも生徒

たちだけで気持ちを合わせて活動に向かい、確実に成長していく姿が見られた。このことから「共通した目的を持つ」ことのできる生活単元学習のよさを感じるとともに、「Let's ミュージカルⅣ」という題材そのものが仲間づくりに適していることがわかった。

今年度、「砂と生きる」のミュージカルの創作にむけて福部町の地域の方にインタビューをしたり、ミュージカル上演に向けてお世話になった方々に招待状を送ったりして様々な方とかがわることができた。ミュージカル上演の際には、招待状を送った地域の方が見に来てくださり、生徒たちの励みとなった。また、今回の題材となった福部町の公民館でミュージカルの上演をし、インタビューをさせていただいた方々をはじめ、たくさんの方に見に来ていただいて、「感動した。」「涙が出た。」といった感想を言っていた。このような地域の方とのつながりをとおして、生徒たちは大きな自信と自己有用感を感じることができたように思う。

学習をすすめていくにあたっては、授業評価シートを活用しながら自己運動サイクルを意識して授業を構成し、学部全員で実態や課題等を振り返って次の授業につなげていった。これによって学部全員で生徒の実態や課題、目標等の共通理解を図りながらすすめていくことができた。そして、その中で、単元の中で生徒の大きな変容が見られることを実感し、途中の評価をきちんと行っていくことが大切であることを再確認した。今後も、単元の途中の評価や目標に対する振り返りを大切にしながら、一人一人の生徒の力がより伸びていくよう共通理解を図りながら支援を続けていきたい。

浜田亜希子, 谷口由紀子, 出田美幸, 内田成俊, 有田裕一, 熊中祐子, 西尾敏枝 (鳥取大学附属特別支援学校)

参考文献

- (1) 『発達の手 (上) (下)』白石正久著, かもがわ出版, 1994.8 (上), 1996.8 (下)
- (2) 『「自分づくり」を支援する学校』鳥取大学附属特別支援学校, 渡部昭男・寺川志奈子監修, 明治図書, 2005.9
- (3) 『障害のある子どものための表現活動「個別の指導計画による身体表現・ダンス・音楽」』竹林地毅編, 東洋館出版社, 2006.2
- (4) 『障害のある子どものための表現活動「個別の指導計画による劇・オペレッタ」』竹林地毅編, 東洋館出版社, 2006.2
- (5) 『認知発達治療の実践マニュアル「自閉症のStage別発達課題」』太田昌孝・永井洋子編著, 日本文化科学社, 1992.12
- (6) 『鳥取大学附属特別支援学校研究紀要』第26集 (H21), 第27集 (H22)
- (7) 『障害児の教授学入門』湯浅恭正・富永光昭編著, コレール社, 2002.5

(資料1)

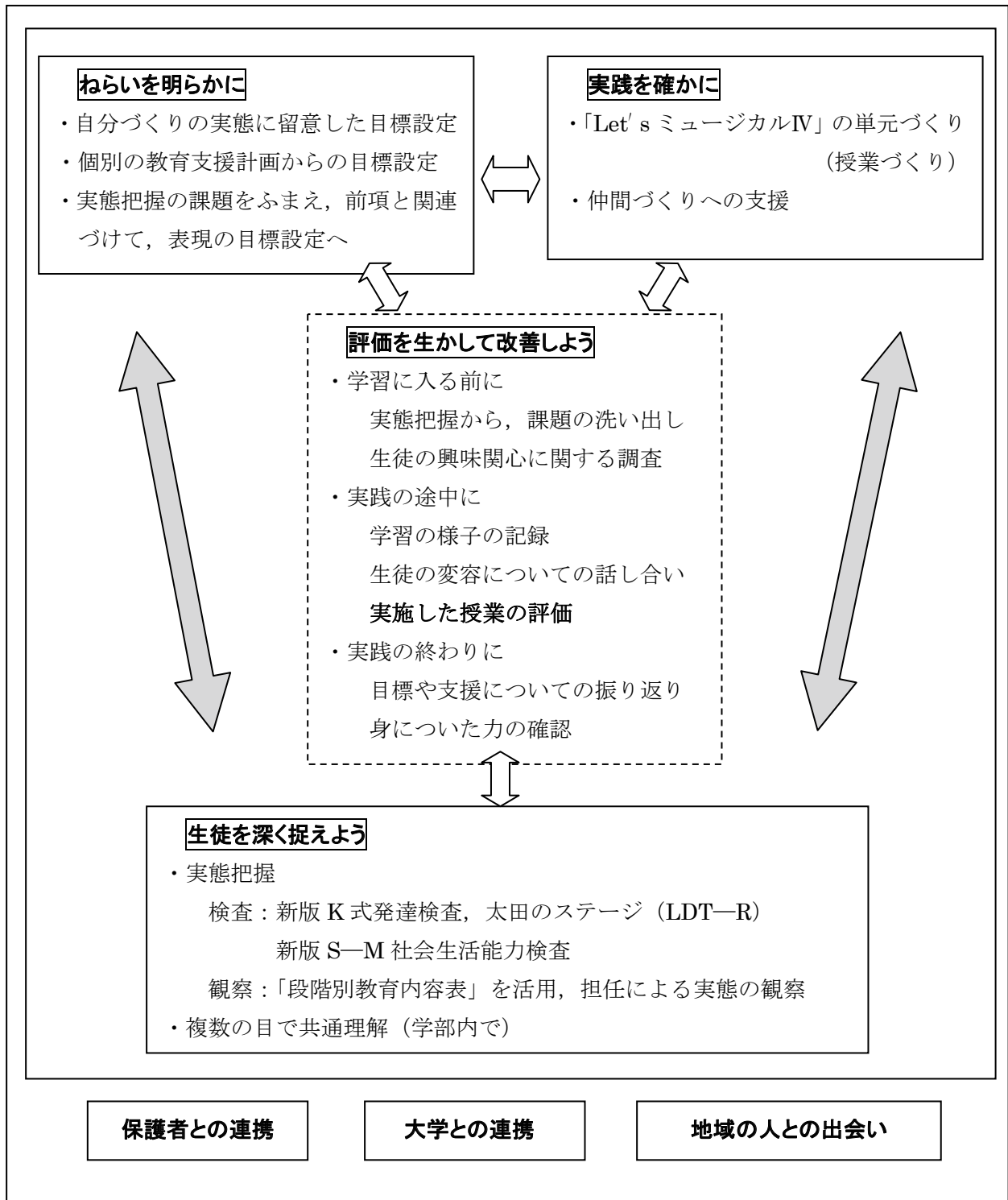
鳥取大学附属特別支援学校 中学部 生活単元学習

(平成23年度)

生活単元学習のねらい
 テーマに向かった活動に主体的に取り組み、仲間と共にやり遂げた達成感、自信、自己有能感を育てるとともに、生活経験を拡大し、自立的な生活に必要な技能や知識、社会性を育てる。

	1年	2年	3年
4月	新しい生活 学級びらき～迎える会にむけて～ 学校探検 自己紹介、学級目標 係の仕事 学級園づくり、迎える会等 春の遠足 買い物 調理 ゲーム 作文	新しい生活 学級びらき～迎える会にむけて～ 自己紹介 学級目標 係の仕事 学級園 年間の行事 迎える会 役割分担 制作等 春の遠足 買い物 調理 ゲーム 作文	新しい生活 学級びらき～迎える会にむけて～ 自己紹介 学級目標 係の仕事 学級園 個人の目標 迎える会 役割分担 制作等 春の遠足 買い物 調理 ゲーム 作文
5月	ふれあいピック 制作(ポスター等) 校外学習の計画 買い物(参加賞) 絵や作文	ふれあいピック 制作(ポスター等) 校外学習の計画 買い物(参加賞) 絵や作文	ふれあいピック 制作(ポスター等) 校外学習の計画 買い物(参加賞) 絵や作文
6月	校内宿泊学習 学習の計画 協力 約束 調理 買い物 電話 公共交通機関の利用 入浴 掃除 作文	X単元(家事スキル等) 買い物 調理 掃除 洗濯 アイロン 校外宿泊学習 学習の計画 働く人々 調理 協力 身辺処理 買い物 電話 お金 宿泊施設の利用 絵手紙 作文 トレッキング 自然観察 礼状	修学旅行 ホテルや公共交通機関の予約 日程表 校外学習 性教育 情報 旅行計画 しおり 公共施設 公共交通機関 買い物 バイキング 調べ学習 お金 荷物の整理 電話 絵や作文 礼状
7月	働く生活(総合的な学習) 働くところ 暮らし方 実習の準備 目標 見学 校内作業実習	働く生活(総合的な学習) 働くところ 暮らし方 実習の準備 目標 見学 校内作業実習	働く生活(総合的な学習) 働くところ 将来の生活 実習の準備 目標 見学 校内作業実習
8月	X単元(校外学習) 公共交通機関 公共施設の見学 お金 絵 手紙 作文	X単元(スポーツ・レジャー) ゲーム スポーツ ルール 数と計算 作品づくり(自然) 作文	X単元(家事スキル) 買い物 調理 洗濯 アイロン 掃除 家での役割
10月	ふれあいまつり(合同) 話し合い 準備 役割分担 協力 お金 調理(手順書) 制作(ポスター、チケット、看板、食品容器等) 清潔 あいさつ・礼儀 人とのやりとり 仕事の態度 作文や絵		
11月	Let's ミュージカルⅣ(合同) 話し合い 準備 役割分担 協力 あいさつ・礼儀 人とのやりとり 話す・聞く・書く・読む 制作(道具、ポスター、招待状等) 歌・ダンス・劇 作文(文、詩、短歌等)や絵		
12月	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 校内作業実習(総合的な学習) 校外作業実習(総合的な学習) 校外作業実習(総合的な学習) 準備 スケジュール 目標等 目標 スケジュール 通動 挨拶等 目標 スケジュール 通動 挨拶等 </div>		
12月	冬のくらしⅠ 大掃除 年賀状づくり等	冬のくらしⅠ 年末年始の行事 制作 大掃除	冬のくらしⅠ 年末年始の行事 大掃除等
1月	収穫祭:稲作(総合的な学習)		
1月	冬のくらしⅡ 書き初め 冬のあそび 調理 雲(文集)	冬のくらしⅡ 書き初め 年末年始の行事 制作 調理 雲(文集)等	冬のくらしⅡ 書き初め 雲(文集) もうすぐ卒業 ① 卒業制作 ② 体験入学 面接
2月	冬のくらしⅡ(続き) 中3を送る会(1・2年合同) 会の計画 役割分担 準備 練習 制作(プレゼント等) ゲーム 協力 感謝 礼儀	冬のくらしⅡ(続き)	もうすぐ卒業 ③ 文集づくり ④ お祝いの言葉 式練習 ⑤ 大掃除 ⑥ 高等部に向けて
3月	もうすぐ進級 校外学習の計画と実施 2年生への抱負 大掃除等	もうすぐ進級 校外学習の計画と実施 3年生への抱負 大掃除等	

(資料2) 実践創造サイクル



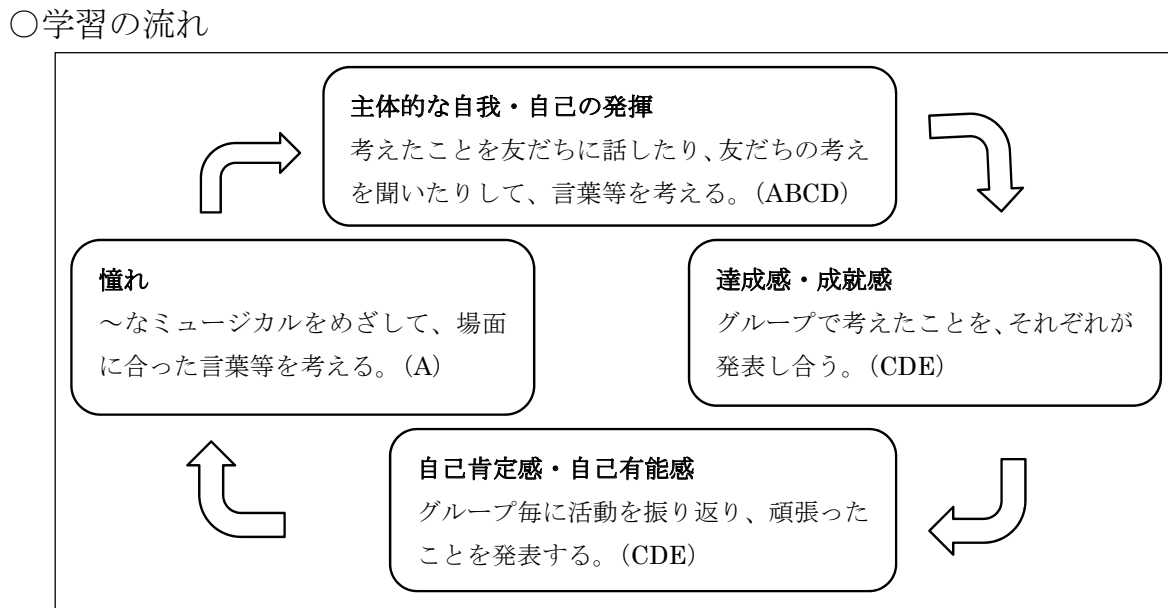
(資料3) 授業評価シート (サンプル)

○単元名 (Let's ミュージカルⅣ) 授業担当者 () 記録者 ()

10 月 26 日 (水)

○題材名 台本づくりをしよう③

○本時目標
自分がイメージしたことを友だちと伝え合いながら、場面に合った台詞や言葉を考える。



☆「自分づくり」に留意した授業づくりの視点

A：自分たちでやりたいことを考えるように B：自分でできるように C：伝えたいと思う気持ちを大切に
D：友だちとの関わり・仲間づくりを大切に E：自己評価や友だちからの評価も大切に

○本時目標の達成

(生徒は本時目標を達成できたか)

ほとんどの生徒が達成 8割くらいの生徒が達成 半分の生徒の達成

○観点ごとの評価

	観点	評価
全体	○目標や学習の流れは妥当だったか。	
	○教材は学習内容に合っていたか。	
	○「自分づくり」に留意した授業づくりがなされていたか。	
自分自身	○支援は適切になされたか。 (声かけ、個別のてだて)	

(資料4) 中学部 仲間とともに表現を楽しむ授業づくり

